



# 21世紀型のカリキュラム改革

## その特質と構造

東京大学大学院学校教育高度化専攻  
佐藤 学

# 21世紀型カリキュラム

## ＜基本課題＞

- ① 知識基盤社会の教育
- ② グローバル教育・多文化共生の教育
- ③ 格差・リスク社会の教育
- ④ 市民性の教育

## ＜基本原理＞

- ① 「質（quality）」と「平等（equality）」の同時追求
- ② 「プログラム」から「プロジェクト」へ
- ③ 新しい授業と学びの様式
- ④ 教師の専門家共同体の構築

# 授業と学びの様式

- カリキュラム＝「プログラム」型（階段型）から「プロジェクト」型（登山型）へ
- 個人学習から協同学習へ（一斉授業から協同学習へ）
- 「教える専門家」から「学びの専門家」へ＝技術的熟達者（technical expert）から反省的実践家へ（reflective practitioner）へ
- 「授業の技術」から「学びのデザイン」へ

# リテラシー（教科教養・共通教養）の教育

1) リテラシーの概念＝学校で教育すべき共通教養＝市民的教養の基礎（機能的リテラシー）

2) リテラシー概念の再定義（PISA）

数学的リテラシー＝「数学が世界で果たす役割を見つけ、理解し、現在及び将来の個人の生活、職業生活、友人や家族や親族との社会生活、建設的で関心を持った思慮深い市民としての生活において確実な数学的根拠にもとづき判断を行い、数学に携わる能力」

# 変わる授業と学びの様式（北米）





# 変わる授業と学びの様式（欧州）





# 変わる授業と学びの様式（アジア）





# 変わる授業と学びの様式（日本）





# カリキュラムの主要領域

- リテラシー（科学的教養・共通教養）の教育  
社会生活の文脈における高度で複雑な問題解決（思考と探究）を中心とするカリキュラム（thinking curriculum）
- アートの教育（音楽・美術・文学・詩歌・演劇・舞踊など）＝想像力にもとづく創造性の教育（デザインとアプリケーションの教育）
- 市民性の教育・社会的正義とケアの教育  
主権者教育・公共倫理の教育・葛藤解決の教育、多文化共生の教育（地域市民、日本社会の市民、地球市民）

# 学校改革・教師政策のトライアングル

人的資本  
(教師の知識と能力)



社会資本  
(専門家共同体)



授業と学びの  
構造と様式  
(カリキュラム)

# 専門家共同体の構築





# 結び＝21世紀型カリキュラムは学校 (school-based) 政策を中核として展開する

- 1) 学校改革＝学びの質 (quality) の追求、授業と学びの革新、専門家共同体の形成
- 2) 学校改革を促進するカリキュラム開発＝curriculum design、curriculum shaping の概念
- 3) 教科書の革新、学習資料・環境の開発
- 4) カリキュラム政策 (policy) の転換＝中央レベル・(市町村) 教育委員会レベル、学校レベル、教室レベルの多層的な政策の革新が必要。
- 5) カリキュラム政策<ヴィジョンと哲学><資源 (文化的、人的、財政的)><デザイン＝実践><評価＝省察>の研究の進展が求められる。